

☆自立活動の視点から情報の整理、中心課題となる事柄（生活上・学習上の困難さ）※過去のことも含め

- ・発声（発音）が不明瞭で、自分が意図していることが伝わらないことがある。（誤解も含む）
- ・口腔機能が未熟なため、咀嚼等に課題がある。
- ・発声（発音）が不明瞭であることが原因により、集団場面で自らコミュニケーションをとりに行くことが難しい



口腔機能を高めるための取り組みが必要！！
リコーダーを使った、口腔機能の訓練



朝の自立活動の時間を活用したリコーダーの実践



使っている楽譜

☆主体的に自分の課題に取り組める「じぶんからする」の実践（Y先生）！！

- ・発音（発声）が不明瞭なことと声の音量のとても小さいという課題があった。また、発音が不明瞭なことからうまく相手に伝わったり、伝えたりという経験も未熟なため主体的なコミュニケーションにも課題がある。リコーダーという音楽でも使う、一人でも扱いやすい楽器を通して、主体的に「じぶんでする、じぶんからする」という姿勢もみられる。飛躍的によくなっていくという取り組みではないが、継続することや自分から課題（解決）に向かうことができています。

ここが指導のポイント！！

【】内は自立活動の区分、項目を記載しています。

- ①リコーダーを使って、口腔機能を高める。
【健康の保持1－（3） 身体の動き5－（3）】
- ②自分からコミュニケーションを取ろうとする。
【心理的な安定2－（1） 人間関係の形成3－（1） コミュニケーション6－（2）】
- ③自らの課題を教員と確認して主体的に課題に取り組むことができる。
【健康の保持1－（5） 心理的な安定2－（4）】

